

# 書窓

## Shoso

No.450

2022.11

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鰯

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

### 子どもの本だな 108

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### あひるのジマイマのおはなし

ビアトリクス・ポター さく・え  
いしい ももこ やく (福音館書店)

あひるのジマイマは、自分で卵をかえしたくて仕方ありません。どこに卵を隠しても主人に見つけられて持っていかれてしまうのです。ある日ジマイマは、遠くで卵を生もうと決心し、家を出ました。丘を越えてたどりついた森で、ジマイマは黒い耳に薄茶色の髭、太い尻尾の紳士に出会います。ジマイマは紳士に安心して卵を抱ける家を貸してもらいますが、なぜかその家は羽だらけでした。

親切な紳士はきつねで、ジマイマと卵を食べようとせつせと世話を焼いていたのでした。ジマイマはそのことに気付かず、紳士の言う通りに玉ねぎやセージなどの食材を用意します。卵をかえしたい一心で悪だくみに気付かないジマイマとずる賢いきつね、動物たちの個性がはっきりと浮かび上がります。また、細かいスケッチを元にした柔らかい色彩の水彩画が、物語を豊かに表現しています。読んでもらえれば4歳ぐらいから楽しめます。(八木)

#### ひとりっ子エレンと親友

ベバリー=クリアリー 作  
松岡 享子 訳 (学習研究社)

エレンは、バレエ教室に一番に着こうと大急ぎでやってきました。毛糸の下着を誰にも見られずに着替えたかったのです。ところが、更衣室にはもう転校生のオースチンがいました。早く一人になりたいエレンは、オースチンに意地悪を言い、追い出してしまいました。

掃除道具置き場でこっそり着替えたものの、レッスン中に下着がずり落ちてきました。おまけに、先生の息子のオーチスがやってきて、エレンの踊りをまね始めました。跳んでは下着を引っ張り上げ、跳んでは引っ張り上げ…。誰もが笑うなか、エレンを助けてくれたのはオースチンでした。

レッスン後、エレンが掃除道具置き場に飛びこむと、オースチンがいました。エレン同様、毛糸の下着を着て。互いの秘密を知ったことを機に2人は仲良くなりました。エレンとオースチンの家庭や学校での日常生活、心の動きが見事に描かれています。7歳ぐらいから楽しめます。(竹内)

#### 11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		<del>X</del>	2	3	<del>X</del>	5
6	7	<del>X</del>	9	10	11	12
13	14	<del>X</del>	16	17	18	19
20	21	<del>X</del>	23	<del>X</del>	25	26
27	28	<del>X</del>	<del>X</del>			

#### 12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	<del>X</del>	7	8	9	10
11	12	<del>X</del>	14	15	16	17
18	19	<del>X</del>	21	22	23	24
25	26	<del>X</del>	<del>X</del>	<del>X</del>	<del>X</del>	<del>X</del>

#### <お知らせ>

#### 講演会「子育ての習俗にみる招福とまじないのデザイン」

子どもの健康を祈る人形や玩具、魔よけのデザインなどについてお話を伺います。あわせて、「耳なし芳一」を琵琶で語っていただきます。

・講師：尾崎 織女さん  
(日本玩具博物館学芸員)  
大藪 旭晶さん(琵琶奏者)

・日時：11月13日(日)  
14:00~16:00

・場所：丸尾建築あすかホール ミニシアター

・定員：70名(要申込)

・申込：太子町立図書館

※詳しくは、太子町立図書館まで。

▶ X印は休館日

(11/4、11/24は祝日の振替、11/30、12/28は館内整理日、12/29~1/3は年末年始休館)

※閉館時は返却ポストをご利用ください。(年末年始は使えません)

▶ 開館時間は10:00~18:00、金曜日は20:00まで開館

『庭仕事の真髓 老い・病・トラウマ・孤独を癒す庭』 スー・スチュアート・スミス 著

和田 佐規子 訳 築地書館 368, 30 頁 2021 年 11 月刊 3, 200 円 (請求記号)629

著者が、ガーデンデザイナーである夫とともに、家の周りの荒地に庭を作り始めたのは 30 年前だ。当初は雑用のように思えた庭仕事だが、次第に庭は愛着のある場所となり、庭仕事に没頭する間に自分がいかに癒されているかに気づく。かつて壮絶な戦争体験により心身ともに傷ついた祖父や、若くして未亡人となった母の喪失感を修復していったのも、やはり農作業であった。

庭仕事は自然との対話だという。五感を働かせ、求められていることとその適期を感じることから始まる。人の仕事に対し庭はゆっくりと応えてくれ、人がまた応える協働作業の繰り返しだ。その手応えは、私たちに神秘的な生命力への感動と植物の生長を手助けした自己への肯定感を与えてくれる。多くの体験者がその喜びを語っている。ときには間違った仕事で枯死させてしまい、厳しい現実には幻滅することもあるが、庭は決して批判をしない。だからまた自然の力を信じ、自分を信じて種をまくのだ。こうして、自然の中にある消失と再生の循環に何度も直面することで、私たちは悲しみを受け入れつつ、未来に希望を描く力を養っていく。また、そこが「庭」という守られた空間であることも大きな意味を持っている。愛着のある場所で安心して自然と向き合い作業に没頭するうちに、対話はいっしか自分の内面へと通じていく。庭仕事は自身の本質をとらえ、精神を整え、現実を生きるための時間になるのだ。

庭や自然に精神の回復や成長を助ける力があることは周知のことだが、本書には農業の歴史、戦時下のガーデニングの意義、土から離れた現代の社会生活が及ぼす影響などが、精神科医としての知見と科学的考察を加えて述べられている。庭仕事がいかに人を癒し、人生を導いてくれるものかを知り、それは読書にも似ていると感じた。晴れた日は庭を耕し、雨の日は本を手を心に耕し、よりよい明日を生きていきたいと願っている。

(秋澤)

11月	12月	11・12月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				<お知らせ> <b>クリスマス</b> 特別おはなしの時間 ・日時: 12月17日(土) ①4才~大人 11:00~11:30 ②小学3年生~大人 11:30~12:00 ・定員: 各20名(要申込) ・場所: 丸尾建築あすかホール 和室 (場所変更の可能性あり) ※大人の方も入れます。 ※途中からは入れませんので、時間までにお越しください。	
3日	8日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 コミュニティセンター 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20		竹広南 公民館 15:30~15:50
10日	15日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50		原 太田東地区 農村交流センター 16:00~16:20
17日	22日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50		吉福 公民館 16:00~16:20

地下水

図書館では、様々なジャンルの本を多くの方に紹介できるよう、カウンター前のスペースを使って図書の特展を実施している。1カ月前に1回のペースで、毎回異なるテーマを決めて選書しているが、今年の10月下旬から12月上旬にかけては、『復刻マザーグースの世界』(ほるぷ出版)の展示を行っている。

マザーグースとは、世界中に広まったイギリスの童謡の総称である。今なお幅広い世代から親しまれているマザーグースは、英語圏では基礎教養であり、そのフレーズが小説や映画等に引用されている。例えば、ルイス・キャロルの『鏡の国のアリス』に登場するハンプティ・ダンプティは、マザーグースの唄「ハンプティ・ダンプティ」が元である。また、1982年に放映されたSF映画『ブレードランナー』においても、「市場へ、市場へ」という唄が使われている。

マザーグースは、英国文化のルーツと呼ばれるほど後世の創作物に影響を与えている。引用されている文句が、原典でどのような文脈で使われていたのか知ること、小説や映画をより深く楽しめると感じる。この機会に、マザーグースの魅力をより多くの方に知ってもらえるよう、努めていきたい。

(光藤)